

2Ka-5 高齢者の色彩と図柄の好み (11) 一年齢別特性の傾向一

○蒲池香津代・吉岡徹** 斎藤祥子³ 高野美栄・家永晶子⁴ 高木くに子⁵

(東京家政学院短大 **大妻女子大 ³北海道教育大 ⁴樟蔭東女子短大 ⁵中京短大)

<目的> 21世紀に入り高齢化社会が現実となった現在、高齢者が実際に好む色彩のものが日常生活に取り入れられ、毎日を豊かで快適に過ごせるようにしたい。そのために1997年度に実施した「高齢者の色彩と図柄の好み」の調査の結果のうち、色彩の好みを中心に検討する。1987年以来、実施してきた調査結果と比較し、また着装してみたい色と実際の着装状況、嗜好色との関係を比較検討し年齢別特性を明らかにする。

<方法> 対象、試料、質問、場所は前10報と同様である。65～74歳を高齢者前期、75歳以上を高齢者後期と2つのグループに分け、嗜好色、嫌悪色、着装したい色について年齢が高くなるとどのような変化があるのかを検討した。

<結果> 年齢別嗜好色は前期1位は4.4 R 4.2/13.7, 2位は3.8 G 5.4/10.1, 3位はN 9.3であり、後期1位は3.8 G 5.4/10.1, 2位は10.0 B 4.0/10.0, 3位は4.4 R 4.2/13.7であった。嫌悪色は前期、後期ともに1位はN1.2, 2位はN3.6, 3位は4.8 Y 3.9/4.3であった。着装したい色は前期1位は10.0 B 2位はN5.4, 3位は4.4 R 3.5/11.8, 後期1位は10.0 B 4.0/10.0, 2位はN5.4, 3位は6.9 P B 5.5/3.6であった。前期はあざやかな(v v)色を好み、後期は明るい(l t)色を好む傾向がみられた。前後期共、暗い(d k)色や無彩色は嫌われており、着装したい色は前期では紺系統、赤系統、濃いグレー等で、後期は青系統、グレー系統であった。前期はあざやかな赤・青・黄、白、黒などはっきりとした色彩が、後期は、青から紫までのやわらかで穏やかな色彩が好まれている。